

ヘルスケアFM研究部会

病院FMの 未来を考えよう!

HCFMgrの立場から

ヘルスケアFM研究部会 副部会長

平沼 昌弘 ひらぬま まさひろ

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院
防災施設管理センター 課長
認定ファシリティマネジャー



部会の近年の話題は、BCP と情報化である。災害拠点病院の要件に BCP 策定と訓練が義務付けられ、一般病院も切迫感を持っており、多くの施設で策定に苦慮している。実効性のある計画をどう進めるか？ファシリティマネジャーの活躍が期待される。

情報化は、ヘルスケア市場の規模感から、医療・介護職からの期待も大きい。ところがいざ導入の段階になると、個人情報や暗号化への理解不足、マネジメントの人財不足やインフラ問題がボトルネックとなり、このままでは情報化の恩恵を受ける側と整備側との齟齬による伸び悩みは明らかである。

部会では、これまで多様なテーマで事例研究や検討を行ってきた。報告書を発刊した「病院の建替・増改築」「BCP」「ホスピタリティ」、学会、展示会では「病院のエネルギー」「押し寄せる情報化の波」、見学、事例研究テーマとして「FM 視点での病院マネジメント」「フリンジ（医療周辺）サービス」「ヘルスケアリート」などがある。中でも、部会に参加するヘルスケア関係者の現在の関心事が先述のテーマに集中していることから、フォーラムではこれを中心に発表・討議を行った。

まず、当院の事例をもとに危機管理（BCP）に触れた。危機管理は、ハザード（脅威）の抽出が重要となるが、ボリュームが増えるほど覚えきれない・読みたくないが先行し、訓練もイベント的な意識も見受けられ現場

理解が難しくなる。

当院は、別途、災害対応マニュアル（消防計画＋BCP）の策定に加え、日常業務の中にさりげなく BCP を落とし込めないか？ということ意識している。また、新病院移転を機に免震構造をはじめとするさまざまな災害への備え、ICT 面からの災害支援ツールにも恵まれた環境にある。

しかし、被害という面での「減災」は、未来への期待も大きいですが、自然災害をはじめ発災自体の「減災」は制御不能といえる。こうした時代だからこそ「何もかも使えなかったら？」という原点に立ち戻ることが必要ではないだろうか？

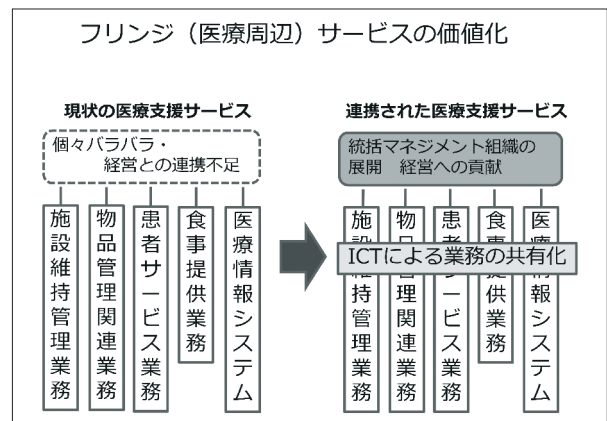
情報化は、部会員である加藤哲夫氏より話題を提供した。フリンジ（医療周辺）サービスは、その価値化によって医療コア業務に対する満足度を左右するものとして、情報共有化は今後必須であるとし、取り組み事例を紹介した。施設・設備・医療機器の固定資産管理と同じプラットフォームで医療材料や食事などの周辺サービス業務も可視化し、一元管理・マネジメントを行うことにより相乗効果が見えてくる。

最近、院内で「FM って何？」と聞かれることが増えた。日々 HCFMgr として自分なりの答えを模索している。まだ即答できないのは、FM の可能性を物語っている証拠ともいえる。未来にどんな答えが見つけれられるだろうか？日々研究は続く。◀

躯体 免震	災害対策	1次対応 (デジタル)	隠れた脅威	2次対応 (アナログ)
電気	2回線受電 非常用発電 UPS	予備線切替え 無補給で5日程 発電機給電	補給路遮断 UPS故障	協定締結→先方が被災？ 燃料の備蓄（異なる熱源） ポータブル発電
水	上水+井水	井水ポンプ 非常用回路	断層のずれ 水枯れ	1500人×3L×3日分備蓄 給水車→道路が寸断？
ガス	中圧管	災害に強い 優先再開通	中圧管破断 数日間停止	異なる熱源機器の確保？ 炊出し？簡易冷暖房？
通信	複数回線網	災害時優先	通信障害	衛星電話/無線機？
参集	参集システム	メール/SNS	通信障害	登院調査（徒歩での時間） 1H以内、2H以内…5km/h
診療	電子カルテ 部門システム	G回路	給電停止 通信障害	紙運用、伝票運用？ 職員のデジタル世代化！

危機管理（災害対応） = 非日常への備え
急性期医療（日常的） = 救急患者さん（非日常出来事）
毎日が災害対応？急性期病院における非日常とは？

図表1 毎日が災害対応？急性期病院における非日常とは？



図表2 フリンジ（医療周辺）サービスの価値化